

栓抜きを手ばなす間なきラムネ売り
空ら瓶を手早くのけてラムネ売る
ラムネ瓶冷やす立てたり倒したり
昼寝覚つきつけられし文字読めず
電車いま西日のがるゝわけにいかず
止まりたるシャワーの太き雫落つ
夜泳ぎの汐に流るゝとは知らず
避暑の荷をほどもあへず寝ころびぬ
道わかりやすし避暑地の矢印は
道舗装されてひろがる避暑地かな
風の日の走馬灯地に置いて売る
道に干す漁網の匂ひ秋暑し
揚花火一旦消えて大開き

灯親し少しも金にならぬ稿
秋灯下聖書に心戻りけり
葛の山雲つくばかり行在所
風向きに従はず萩はねもどる
またゝける露のごとくに峠の灯
ネオン駆けめぐりなかなか月出せず
見えてゐて鯨なかなか喰ひつかず
弁当を開きたるとき鯨かゝる
瘤並びあひて前山粧ひぬ
懸崖の菊を貫きえぬ夕日
朝寒の蛾の翅立てず這ひにけり

二〇一七年四月二五日